委員会視察成果報告書

令和８年10月20日

犬山市議会議長　大沢　秀教様

議員名　ビアンキ恵子

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和８年１０月６日（火）
(2)視　察　先	三木市議会　兵庫県三木市上の丸町10番30号
(3)視察の種類	常任（民生文教委員会）学校の在り方及び再編検討について
(4)視察成果 （視察地ごとに記入）	三木市は、人口も児童生徒数もほぼ同じですが、面積は約2.4倍です。犬山市同様人口減少に伴い、先進的に小中学校の再編を行ってきた街です。小学校16校が13校に、中学校8校が6校に、また現在小中一貫校の設置も決まっています。 今回どのような経緯で決まっていったのかを視察してきました。 ・まず、その取り組みとして平成21年3月に小中連携教育の取組が始まり各地元との説明会も50回以上を重ねています。 ・再編に伴い通学に対しての意見が多数出た→スクールバスを独自で運行（15台/バスはリース契約、運転手は委託） ・小規模校との合同授業→自然学校が4泊5日の野外授業を実施しオンラインで前もって自己紹介をしている。 ・廃校跡地の利活用について→民間が家賃を払う、必ず市も間に入る 現在アパレル業者の小売りや卸売り 釣り具店がバーベキュー、ドッグラン、ペット用品の販売 地元地域がトレーニングルーム、マルシェ、貸しスペースなとで利用
(5)犬山市に 対する提言	・小中学校の再編や小中一貫校については「学校環境在り方検討会議」の設置が早急にされなければいけない。 ・小規模校との交流として、自然教室と事前のオンラインによる自己紹介は大きな役割があるので、実施するべきと考える。 ・将来的にスクールバスも考えていくべき。 ・地元住民、卒業生にとっては、通っていた学校が廃校になるのは理解するには難しいので、三木市のように民間活用をすることも検討していく。 経緯については別紙を添付



小・中学校に関連するこれまでの経緯 1/2

年度	内　　容
H21.3	小中連携教育の取組み始まる。
H29.3	「学校環境在り方検討会議」設置
H30.7	「学校環境在り方検討会議」から「学校再編検討会議」への名称変更
R1.10	「三木市市立小中学校の学校再編に関する実施方針」策定。 三木市内には、小学校16校、中学校8校、特別支援学校1校があるが、将来において人口減少が予測されることから「三木市市立小中学校の学校再編に関する実施方針」策定した。 ・ 一定の集団規模を確保すること ・ 小中一貫教育の導入及び推進をすること
R3:4	中吉川小学校、上吉川小学校、みなぎ台小学校の3小学校を統合し、「吉川小学校」が開校する。
R3.4	「志染中学校」と「緑が丘中学校」が統合する。
R4.4	「東吉川小学校」と「吉川小学校」が統合する。
R4.4	「星陽中学校」と「三木中学校」が統合する。
R4.6	「三木市小中一貫教育推進協議会」が発足する。
R5.1	三木市小中一貫教育推進協議会から「三木市小中一貫教育推進に係る意見書」を教育委員会が受領する。

3

小・中学校に関連するこれまでの経緯 2/2

R5.5	「総合教育会議」において、吉川地域に施設一体型小中一貫校を設置する方針が決定する。
R5.10	「吉川地域における施設一体型小中一貫校設置に係る地域協議会」が発足する。
R6.4	「吉川地域における施設一体型小中一貫校設置に係る教職員部会」が発足する。
R7.7	「吉川地域における施設一体型小中一貫校基本構想（案）　地域説明会の開催
R7.8	「吉川地域における施設一体型小中一貫校基本構想」の策定
R8.1	「三木市吉川地域義務教育学校設置に係る基本計画策定業務」委託契約の締結。
R8.3	「吉川地域小中一貫校開校準備委員会」が発足。

4

委員会視察成果報告書

令和８年10月20日

犬山市議会議長　大沢　秀教様

議員名　ビアンキ恵子

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和８年１０月７日（水）
(2)視　察　先	姫路市デジタル戦略本部　姫路市安田４丁目１番地
(3)視察の種類	常任・民生文教委員会　乳幼児健診・小児予防接種のデジタル化
(4)視察成果 （視察地ごとに記入）	・導入の背景→記入にかかる保護者負担、結果把握までに時間を要する 受診結果のデータ化へのコスト、保管場所など。 全国でも先進地であり、補助金決定から、３年の間に下記の内容をデジタル化している。 ・７か月児の健康相談から５歳児健診など 姫路市は「デジタル戦力本部　デジタル戦略室」が各担当課と一緒になり、アナログ職員にも説明しながら、進めている。 問題点として導入に関わる費用、ランニングコストの大きさ 紙ベースは決してなくすことが出来ないため、事務の煩雑化。 市長が医者であったこともあり、生まれる前から、成人になっても利用できるデジタル化の推進を行っている。
(5)犬山市に 対する提言	デジタル化を推進するのであれば、姫路市のように「デジタル戦力本部デジタル戦略室」を作り、各課に対応できる体制を作るべきと思う。 導入費用、ランニングコストも考えたデジタル化と、紙ベースとの併用をどうやっていくかを考えるべき。 外国人も増えている犬山市なので、言語の問題も考えていかなければいけない。 医師会との協力なしでは、できないので、まずそこから始めることを考えないといけないと思います。 姫路市が導入にかかった費用については資料添付

3．導入に関わる費用

姫路市

- 母子健康手帳アプリ　　：　550,000円
- 乳幼児健診等のデジタル化　：21,942,800円
  初期構築　：16,272,300円
  改修　　：　5,670,500円（※）
- 小児予防接種のデジタル化　：25,985,300円

すべて補助金による2/3の補助あり（（※）を除く）

すべて税込み